

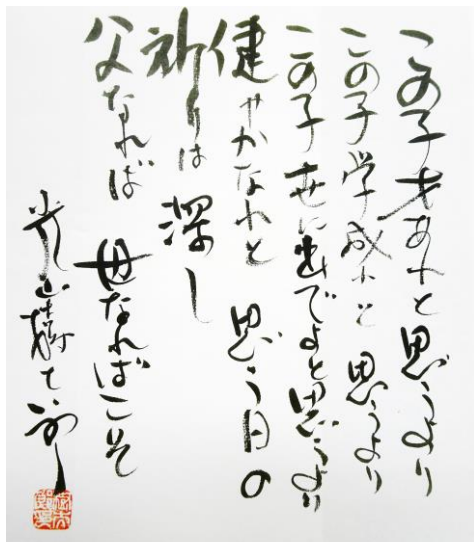


まごころ通信

教育長コラム

『言葉のちから』

これは小田原の詩人、光山樹太郎先生の詩です。この詩は、わが子を愛する親(家族)の熱く切なる願いを表したものです。



私が初めてこの詩に出会ったのは、平成9年4月三の丸小学校に4年生の担任として赴任した時でした。案内された応接室に飾られている額を目にしたのが出会いました。初めて目にしたその時からとりこになり、今でも手帳に書き写したものを時々読み味わっています。

なぜ、この詩をこんなに好きになったのか、それは一つ一つの言葉の中に光山先生ご自身の我が子に対する深い愛情、深く豊かな感性と人生経験を感じ取ることができるからです。そして、それらが先生ご自身の言葉で熱く語られ、流れるような書体の一文字一文字がその思いをさらに強く訴えかけ、私の感性を震わせるのです。併せて、父としての私にだけでなく、教育者としての私にも、人との関わり方を問いかけ、生き方を振り返らせ、今後どう生きていけば良いのかという示唆を与えてくれるのです。



言葉(文・文章)は、その人の心、感性を表します。人の思いや願い、喜びや悲しみ、決断や行動、そしてその人の生き方そのものを表し、他の人の心を動かします。言葉は、正にその人を映す鏡であり、その人自身であると思います。

さて、先日ある小学校に伺ったときに、廊下に掲示してある2年生の絵日記に目が留まりました。絵日記からは、子どもたち一人ひとりの思いや願い、感動や驚きといった心の響きが伝わってきました。少ない語彙の中から精一杯、心の響きを表現している様子に深い感慨を覚えました。また、その日記に記された、日々子どもを共感的に理解し、慈しみにあふれた担任ならではのコメントにも感心しました。そこには、温かい関わりと絵日記を通して対話をし、共にその日のことを大切にしようとする、深く温かい心の交流が見て取れました。

自分の心の響きを言葉で表したり文章に書いたりすることは、自分を見つめ直し振り返り感性を磨くこと、自分の思いを表し人の心に届けること。そして、明日の自分を見つけ、生き方を見つけることにつながると思います。

子どもたち一人ひとりが、言葉を大切にして、「人・もの・こと」との関わりを更に深め自己肯定感を育み、より充実した学校生活を送れるよう、言葉のちからについて今一度見つめ直してみたいかがででしょうか。

小田原市教育委員会教育長

柳下正祐



学校運営協議会制度

学校運営協議会とは、学校・家庭・地域社会が一体となってより良い教育の実現に取り組むため、保護者や地域の方に一定の権限をもって学校運営に参画してもらう仕組みです。

学校運営協議会を活用して、学校運営に地域の声を取り入れ、地域の創意工夫を生かした特色ある学校づくりを進めています。

小学校全 25 校への設置は令和元年度に完了し、中学校全 11 校への設置を令和3年度から順次進めています。



各学校での取組事例

● 下中小学校



下中小学校では、「地域とつながる下中の子」という目標を掲げ、学校・PTA・学校運営協議会が協力して毎月7日に挨拶運動を行っています。下中地域に住む大人と子どもが挨拶をし合える関係づくりに力を入れています。

● 下府中小学校



下府中小学校では、地域ボランティアの方々に、こいのぼりの設置や日常的な芝の手入れなどをしていただいています。

地域の皆さんの協力のおかげで、きれいな芝生で活動が行うことができます。

● 城山中学校



城山中学校では、玄関の生け花が絶えることがありません。地域の方が何年にもわたり、生け花を届け続け、教師も生徒も生け花を楽しみにしています。生け花に関心を持つ生徒も増えました！

生けているところに話しかける生徒も多く、生徒との交流の場にもなっています。

この地域の方には学校運営協議会のメンバーにもなっていただき、生徒たちの変化を伝えてくださっています。



地域の皆様の活動やつながりなどを学校運営に生かせることがありますので、ご協力をお願いします。